

思春期健康教育教材研究に関する一考察Ⅱ

中 出 佳 操* ジェラルド・フランク**

はじめに

筆者らは従前より、思春期の健康問題に取り組んできている。特に思春期にある若者において、喫煙や飲酒、性感染症、ストレスなどが身近な問題としてあげられる。それぞれ問題とする内容は異なるが、今現在、早急に取り組んで行かなければ将来に多大なる影響を及ぼすことは共通している。

筆者らは大学生がピア・サポーターとなり、大学生仲間に、或いは高校へ出向き健康教育講座の実践を行ってきた。そこで明らかになってきたことは、学校教育だけでは限界があること。言い換えると思春期の子どもたちだけに教育することには限界があるということである。学校と地域と家庭の連携という言葉はよく聞くところであるが、正にそのことが重要であると痛感している。特に先にあげた健康に関するテーマは、地域保健や学校保健、職域保健では働きかけはしているはずであるが繋がりがはっきりしないのである。

本稿では既に報告済みである¹⁾がProject Northlandの飲酒予防教育プログラムを参考として日本版の教材作成を試みた。その活用結果と、地域と学校と家庭が共通の教材を活用することで、連携の目的達成が可能である

かについて検討する。

I 研究方法

教材を作成及び活用しその効果を検討する。

効果判定は記載内容とアンケートの意見を集約した。

教材は授業の一環として短時間使用する場合と、4回継続的に使用できる場合の2通りを作成した。

II 教材作成及び活用

1) 教材作成の留意点

「性」「喫煙」「飲酒」「ストレス」の4テーマに基づいてテキストを作成した。

作成時に留意したことは次の点である。

- ・活用の対象が、中学生や高校生とその保護者ということで、若者のニーズを考慮した。
- ・必要最低限の内容とし、負担にならず気軽に活用できる内容とした。
- ・学校教育中心であるが、家庭や地域に発信できる形とした。特に親子で活用でき、共に学べる内容とした。
- ・自己肯定感を高める内容を含むことにも心がけた。
- ・「自分の人生」という視点から常に考える

*浅井学園大学人間福祉学部福祉心理学科

**浅井学園大学人間福祉学部福祉心理学科

キーワード：思春期健康教育，教材

ことができるような内容とした。

若者のニーズに関しては、本学（浅井学園大学）ピア・サポーターが中心になり、若者の視点で内容を検討した。更に今まで出前講座を行ったときに実施した約600名の事前調査結果も考慮した。事前調査結果は既に報告済みであるが²⁾ その結果の概要は次のような点である。

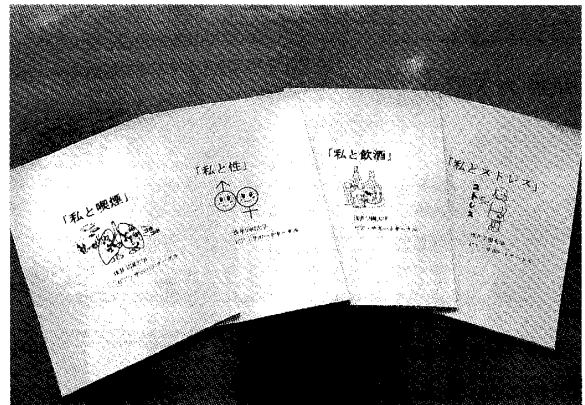
- ・自己効力感の低い生徒が50%以上いる。
- ・身近に健康問題を抱えたり、体験者（性感染症や人工妊娠中絶者）がいても、自分の問題として考えられない。
- ・身近に相談できる場所がない。特に男子生徒は誰にも相談していない状況である。
- ・性の問題は学校でも家庭でも話題にできる雰囲気ではなく、特に家庭ではそうであ

る。

- ・学びたい内容としては、性に関する基礎知識、性感染症、異性の心理である。

2) 作成教材の紹介

作成した教材は短時間用1種類（図1）と数回継続使用の4種類である（写真参照）。



<p><お子様の素晴らしいところは？></p> <p><自分の好きなところは？></p> <p><こんな人生を送りたい！></p>	<p><今日の学習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性の持つ3つの意味 2. いのちを受け継ぐ素晴らしさ 3. トラブルと予防 (性感染症) (人工妊娠中絶)
---	--

図1 短時間用の教材

本論は実際に活用できた性に関する教材を中心に取り上げる。

①短時間用教材

次のような事柄を狙いとして作成した。

- ・親に関心を持ってもらう。
- ・親子で性に関する理解を深めてもらう。
- ・自己肯定感を高める。
- ・講座内容を記憶にとどめ、自己学習に役立てる。

②継続用教材

<1回目テーマ 私と性>

(設定理由)

従来まで性教育は学校任せであったが、性教育は家庭と学校の連携が必要であることから親の参加を期待するものとする。

現在の親世代は親自身が学習していないことから、親子で学習できるものであることが必要である。

(狙いと内容)

①改めて子どもを客観的に見る機会とする。

- ・お子様の素晴らしい点を書いてください。

②親自身子どものどのような点を理解しているか考えてもらう。

お子様のお友達のことを知っていますか？

- ・何人くらいのお友達がいますか？
- ・いつからお友達ですか？
- ・お友達は異性ですか同姓ですか？
- ・親御さん同士仲良しですか？
- ・お友達はタバコやお酒を飲みますか？

③子ども自身、自己の性を受け止め、肯定感を高める

- ・自分の大好きな点を書いてみよう！
- ・自分の性について考えてみよう！

④基礎知識「性の意味を理解する」

- ・性の3つの意味を知っていますか？

「生殖の性」「快楽の性」「連帯の性」人間だけに与えられているのは、快楽と連帯の性である。連帯の性は赤ちゃんの時からはぐくまれ、お友達を仲良く手をつなぎあうこともその一つ。学校時代色々な人とお話をして人との付き合い方を学ぶことが大切である

<2回目テーマ いのちの素晴らしさ>

(設定理由)

性の問題を、いのちを受け継ぐという視点から考えてもらい、生命誕生は神秘的な巧妙さで行われるものであり、安易に人間が操作するものではないことを理解させる必要がある。

(狙いと内容)

①いのちの誕生は奇跡とって良いほどすごいことであることを理解する。

1ヶ月に1個の排卵、しかも2時間しか生きていない卵子と5億匹から選ばれた、たった一つの精子との出会いで生命は誕生する。この仕組みをすごさを感じ合う。

②思春期になる子どもたちが一番知りたがっている、異性の気持ちを理解する。

- ・知りたいことを書いてみよう！
- ・返事を書こう！
- ・異性に対する希望を書いてみよう！

<3回目テーマ トラブル発生>

(設定理由)

性行動をいのちを受け継ぐ行為として、そ

の過程で生じるトラブルに焦点を当てる。従来の教育で行われている脅し教育に陥らず、自ら考えて自ら選択できるようになることが必要である。ここでは、父母の方の理解を深める意味でも資料として整理する必要がある。

(狙いと内容)

素晴らしい、いのちの営みの過程で生じるトラブルを理解し、どのようにすると回避できるかを学習する。

①思わぬ妊娠！

- ・学校は？
- ・進みたい道は？
- ・かかる費用は？
- ・一口メモで中絶費用、中絶可能な時期などについても紹介する。

②性感染症に感染！

- ・種類と症状、治療
- ・感染予防
- ・検査概要など

③トラブルを避けるために！

- ・自分を大切にするために相手にどのように伝えますか？
- ・相手を大切にするために相手にどのように伝えますか？

<4回目のテーマ 性に関するトピックス>

(設定理由)

現在は雑誌やメディアを通じ情報があふれている。その多くは誤った情報で正しい情報が埋没してしまっている状況が伺えるため、その実態を明らかにしながら、正しい情報提供を行うことが必要である。

又、学びを終えた結果、受身で終わるので

はなく各個人、家庭、地域それぞれの立場から何をすべきかについて考えてもらう必要がある。

(狙いと内容)

現在若者の間で言い伝えられている避妊法や新しい性に関する言葉などをピックアップし説明する。そのことで誤った知識の修正と、基礎知識の復習を狙いとする。

又若者たちの間で使われている言葉を保護者は知らない場合が多く、保護者に現状を知ってもらうことを狙いとする。

アイデアコーナーとして、親子で考え記載してもらうことで共通の話題の提供と、それぞれが果たすべき責任を自覚しお互いの連携の必要性を理解できることを狙いとする。

・こんなこと知っていますか？

・アイデアコーナー

あなたは何かができますか？

保護者の方は何かができますか？

地域の方は何かができますか？

Ⅲ 教材作成及び活用結果

短時間用教材は授業の一環として表1プログラムの中で活用した。

プログラムの目的：

①性についての既習の知識を再確認する。

②性を自分たちの問題として考えることができる。

対象；T高等学校1年生360名、K高等学校3年44名、S高等学校3年16名

時間：60分

実施者：本学ピア・サポーター

教材活用状況としては、自己の良いところと、自分の人生設計に関しては抵抗無く受け

表1 短時間講座プログラム

活動事項	活動の狙い	活用内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生にピア・サポート活動を理解してもらう ・緊張を軽減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポーター自己紹介 ・ゲーム『隣の人はどんな人?』
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・性の問題を身近なものとして考える機会とする ・日ごろ考えていること、疑問点などを自由に話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ『高校生ラブストーリー』各グループからの発表 ・まとめの段階で教材の自分の人生の部分を活用する。 ・フリートーキングタイム
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない自分であることを自覚してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を用いながら、自分が大切な存在であること、今日学んだことのまとめを教材を使いながら行う。

入れられ、全員が記載していた。しかし、保護者からの言葉を記載することに対し色々抵抗があった。1つの高校では、寮に入っている生徒が多く、親のコメントをもらうのが難しい状況にあった。他の2高校では、現在は生徒の家庭が複雑な人が多く、全員に記載することを求めるのが困難な状況にあったため、いずれも記載可能な人のみと言うことで行った。記載分については子どもに対してのメッセージとしてきちんと書かれていた。

継続用教材活用の場合

A地区の性を考える会主催の研修会に集まった高校生25名と大人12名に、3回で活用した。

3回のプログラム概要として、1回目はコミュニケーションスキルを学び、同時にO市内を探検し、性情報の実態に関してのワークショップを行った。2回目は教材を活用し、基礎知識の確認を行うと同時に地域活動に向けてのイベント企画をおこなった。3回目は

地域活動ということでイベントを行い、その段階では教材を全てを活用し終わった状況とした。

プログラムの中で教材を活用しながら記載をしてもらったり、説明をしたりという形で行った。非常に効果的であったのは『自分の好きなところ』と『異性の気持ちを聞きたい』『アイデアコーナーで自分はどんなことができるか』ところであった。異性の気持ちについては出席している生徒がお互いに聞きたい内容を書き、テキストを異性と交換してその回答を書いてもらう方法を取り入れたが、真剣に書いており、返事の内容にも生徒は高い関心を示していた。例を挙げると

<男子生徒から女子生徒へ>

Q：何故女性とは知らない人とすぐ仲良くなれるのか

A：友達を沢山作りたいから。

Q：男友達と遊ぶのと女友達同士で遊ぶ時の違いは何か

A：女同士だと気を使わない点。

Q：女子はどのような友達つきあいをするものなのか

A：おしゃべり中心で、遊んだり話したり悩みを相談したりする

Q：どのような悪口を言われるものなのか

A：私は言わないようにしている。

<女子生徒から男子生徒へ>

Q：男に生まれてよかったことは？

A：トイレを簡単に済ませることくらい

Q：他の男子と話す和不機嫌になるのはなぜ？

A：自分が沢山信用して沢山愛を贈れば気にすることは無い。

Q：スカート丈は短いのが好き

A：相手の人を見て話をするためには長めの丈がいい。

Q：何故男性はエロ本を読むのか

A：常識の範囲の内容のもので、たいていは時間つぶしのために読むことが多い。

Q：胸が大きなほうがいいのか

A：男性は自分にないものを欲するからあったほうがいいのか。

Q：SEXを拒否されたらどう思うか

A：仕方がないと思うけど、落ち込むかもしれない

Q：好きでない子とのSEXはできるか

A：できる人はいるかもしれないけど、自分はできない。

Q：男の子がかわいいと思う女の子は

A：人それぞれだけど、外見的にはアイドルタレントのような人だけど、内面的に図太さとナイーブさの両方を持った人。

などの記載があり、考える機会にもなって

いると考える。

<アイデアコーナー>としては、自分で何ができるかについて、高校生の回答は次のような内容であった。

- ・断る勇気を持つ
- ・正しい判断ができるよう学習する。
- ・軽い女にはならない。
- ・友達の人にもこの活動や知識を広げていく。
- ・相手との話し合いをしっかりする。
- ・漫画やうわさなどの知識に頼らない。
- ・相手を尊重して行動する。
- ・性に関して真面目に学習し、分からない状態で行動しない。
- ・コンドームを絶対付けること。
- ・性に対し畏敬の念を持って行動する。
- ・自分の将来や自分の生まれてきたかを考え行動する。
- ・自分に関係ないこととせず、自分なりの意見を言えるようにする。
- ・など建設的な意見が書かれていた。

保護者としては

- ・自分自身知らないことが多かったので、関心を持って学ぶ。
- ・他の人にも若者の活動を伝えていく。
- ・地域の広告などの環境面に目を向けていく。
- ・子どもに関心を持ち、一緒に話し合えるように心がけるなどであった。

IV 考 察

1. 健康教育における教材の効果

健康教育は理解しているようで実行に移すまでのハードルの高さも無視できない。特に性教育や喫煙、飲酒の問題は若ければ若いほど心身に及ぼす影響は大きいにも関わらず、

10代の性感染症や人工妊娠中絶が右肩上がりで上昇しており、医療保健関係者はその対策に苦慮しているところである。大切なことは正しい知識の普及であり、それに従って自己決定し行動できることである。そのことを狙いとして現在注目されているのが年齢の近い者同士が学びあうピア・サポート活動である。筆者はその活動に取り組み効果があることは明白になっているが、効果を持続させるためには何が必要かを模索し続けている。当事者である若者が考えることと同時に若者を取り巻く環境作りが必要である。一番身近に家庭があるが、現状としては話題にすることすらできない状況にあり、そこで考えたのが今回のような親子で活用できる教材作りである。

今回のようなワークブック形式は、プログラムに従い話を聞いたり、グループで話し合ったり、自分で考えながら記載したりと、色々な活動を組み合わせる中で用いることができ、若者には活用のしやすいものであると考える。特にピア・サポート活動は、本音を容易に表出でき楽しい時間を過ごすうちに、目的を見失いがちになることも心配され、そのことを予防する意味でも効果的である。

若者のニーズの高い『異性の事を知りたい』点に関して、実際に記載してみると素朴な内容が多く、そのことに対して異性から色々な回答を得ることで、日ごろの疑問が解消されるばかりでなく、もっと自由に話し合える基盤にもなりうると考える。性に関してだけを取り上げると、高校生の事前調査にもあったように日常的になかなか話題にできない状況にあるのが現状である。特に家庭では話題にすることができないと答えている半数

以上の高校生にとって、教材活用をきっかけに、異性間のコミュニケーションや親子での会話が進む一助となり得ると思われる。コミュニケーション不足が若者の健康問題の根底にあるとするなら、更に教材の内容を吟味し、若者の視点に立った教材を工夫をしていくことが大切なことだと考える。

又、今回は少数の活用であったが、保護者の方にとっても教材活用が有効であったと考える。現在の高校生の保護者の年代は、性教育を中心とする健康教育を受ける機会が少なかったと思われる。健康教育内容も変化していることから、保護者の学習意欲は高まっていると思われる。今回のように同じ教材を活用することで、若者に対する理解と同時に、保護者同士がピア意識を育むことができると考える。保護者と若者が変容することは、いずれは地域の変容にも繋がるものと思い、ピア・サポート活動の中で教材を活用していくことが地域と学校と家庭の連携に一助になることが明らかになった。

2. 教材活用の課題

若者にとって、ピア・サポート活動としての健康教育をする場合、教材のあることは非常に効果的であることは明らかになったが、教材作成のもう一つの大きな狙いである、家庭や地域への連携に関しては、一助になると同時に課題が残された。

それは時間内で行うことが無理であり、必ずホームワークとして持ち帰ることが必要となることである。これは保護者の理解を得るためには当然のことである訳だが、短期的に活用するものであれば1度だけの持ち帰りでも済むが、数回活用する場合などは、何度か家

庭と学校との往復が必要になる。今回実際あったように、寮生活をしていて、土日のみ家庭に帰る状況であったり、何度か繰り返し使用するうちに忘れてたり、忙しい家庭ではそこまで関わってくれる保護者のいない場合もあるなど、足並みを揃えることの困難性が考えられる。学校によっては足並みが揃わないことを理由に活用できない事も考えられる。今後はどこまでの範囲であれば可能なのか、活用方法について検討する必要があると考える。

一方においては学校を離れた地域活動の場での活用を大切にし、そこからの活用の広まりを大切にしていける必要があると考える。一律に全ての家庭を対象にするものではなく関心のある人が集まって学ぶという機会を大切に、その所で活用をしていくと効果が大きいと思われる。

今回参加していただいた親が、高校生と同じように真剣に取り組み好評であったことから、今後は親にもピア・サポート活動を導入し、教材活用をしていくと効果的ではないかと考える。

本件研究は平成17年度の浅井学園特別研究助成を受け行ったものである。

文献

- 1) ジェラルド・フランク, 中出佳操「効果的な思春期健康教育プログラム I, II」『人間福祉研究』北海道浅井学園大学 第8号 2005 P 213~230
- 2) 穴水ゆかり, 中出佳操「効果的な健康教育のための事前アンケートの工夫」第51回日本学校保健学会講演集 日本学校保健学

会 2004. Vol.46

A Study of Teaching Material related to Adolescent Health Education II

Yoshimi NAKADE Jerrold Frank

ABSTRACT

The purpose of this study was to examine the effectiveness of teaching material concerning sex education for high school students.

The material had two versions, short and long term, and focused on how students thought about sex issues and sought to raise their self-esteem by using the material with their parents.

As a result of applying the material with the students, some positive effects were seen. The most important effect was that students began to recognize problems related to sex as problems for themselves. However, two problems to be solved were also found. The first time was constraints, second was from concern parents, because some students could not do the homework with their parents or had a lack of tim.

This material has not been used in communities yet, therefore, we need to find a solution to these problems before applying it to communities.

Key words : Adolescent health education, Teaching material